

日本声楽発声学会

The Japan Association for Research in Singing

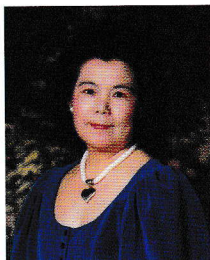
学会通信

2014年4月 日 第27号

会員のみなさまへ

会長 末 芳枝

今年の東京は雪が何度か降り積り、交通麻痺と道路の大渋滞、近隣の山梨県では、50年ぶりの豪雪で、孤立した村をヘリコプターが救助活動を行う程、日常生活に大きな影響がありました。



桜の開花は、例年より10日遅れ4月に入り今やっと遅い春を迎えました。会員の皆様には、お健やかに過ごしていらっしゃいますか。

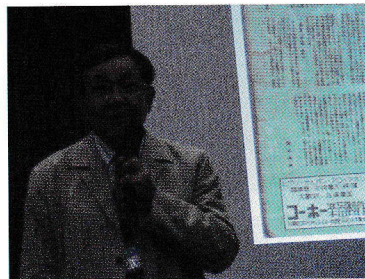
本年は日本声楽発声学会にとりまして、設立50周年という記念すべき年を迎えました。来る5月25日の第99回例会に於きまして、昼食の時間を延長し、祝賀会を開催致したく企画致しました。設立のためにご尽力下さいました先生方そして、発展のために寄与して下さいました諸先生方に改めて感謝と敬意を表したいと存じます。

本年の特別企画と致しまして、5月例会は、「特別講座」を三講座、9月15日には「歌の集い」を淡野弓子理事企画による合唱特集、11月例会は第100回例会記念として、沖縄で開催いたします。豊田喜代美理事を中心に沖縄支部の方々が、琉球文化を様々な角度で研究発表する事を企画され、われわれ会員を感動させて下さると期待致して居ります。

皆々様、学会通信の記事をご参考に、早めにご計画を立て、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

去る2013年11月例会では、午後から「柴田陸先生生誕100年記念講演・演奏会」を開催いたしました。

氏の門下生である山田実相談役と豊田喜代美理事を中心に、大倉由紀枝女史、古橋郷平氏のご協力を得て、ソロや二重唱のすばらしい歌唱芸術の世界を繰り広げて貴重な資料を掲示し講演する山田相談役下さいました。



演奏会 二重唱 豊田理事、古橋郷平氏

ソロ 大倉由紀江女史(→)

また、永吉三恵子女史も加わって下さり、師の思い出を語っていただきました。

創設者のお一人である柴田陸先生のお人柄や業績を改めて認識致し、会員一同感謝とともに氏を偲ぶ事ができましたことをご報告致します。



山田相談役(左) 永吉三恵子女史(中) 豊田理事(右)

11月例会報告

11月例会の様子を写真でご報告いたします。



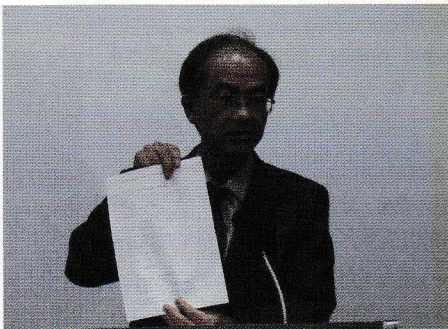
開会の辞を述べる
末会長

研究発表 (1)



「声楽指導へのアプローチ パートII」
— 発声によることばの明瞭・不明瞭 —
発表者 永井 和子(会員)

(2)



「歌う」行為の意味と意義
— 演奏と教育をつなぐもの —
発表者 小川 昌文(会員)

(3)

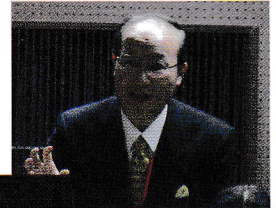


「新曲へのアプローチ」
— 歌詞が先かメロディーが先か —
発表者 山田 実(本学会相談役)

質問の様子



泉理事



河合理事



竹田理事



豊田幹事



飯田名誉会員

「柴田睦陸先生生誕100年記念講演・演奏会」
*P1の末会長の記事をご覧ください。



閉会の辞を述べる
川上副会長

このコーナーでは、会員のみなさまの感想、
レポート等交えて展開していきたいと考えてい
ます。

例会、研修会等の感想、レポート等を、メー
ル、FAX、郵便等で事務局までお寄せ下さい。

学会通信担当 幹事 相川修一



創立50周年記念演奏会「歌の集い」[9]

2014年、日本声楽発声学会は創立50周年を迎えました。これを記念し、「歌の集い」も意義ある祝祭的な企画をとのご要望に応え、演奏部門では以下のようなコンサートを提案し、理事会の承認を得ましたので、皆様にお知らせ申し上げます。

2014年9月15日(月・祝)

三鷹市芸術文化センター「風のホール」

(1F 440席 2F 185席)

合唱曲《宇宙について》

柴田南雄作曲 を皆様と！

「人間の発する声」を根本に戻して考える試み

《宇宙について》は、中世から12音までの各時代様式による幾つかの合唱曲に、後半諸民族の祈りの歌に生月島に伝わる隠れキリシタンの「オラッシャ」が歌われ、最後は華厳経となるシアターピースで、柴田南雄代表作の一つです。

「音楽と世界の多様性に触れ、各人が宇宙(世界)について考える。」とは《宇宙について》の作曲者柴田南雄氏のメッセージですが、この曲に取り上げられた各民族の「創世神話」のテキストやその内容、また宗教歌で歌われる「神を求める心」に虚心坦懐に向き合い、促されるままに発した自分の声、それはひょっとしてあなたが初めて聴く自分自身の声かも知れません。興味深い「声の展開」そして「声の冒険」を是非ご一緒に！

コンサートの構成

前半45分は参加各合唱団それぞれの単独ステージで、自由な曲目で構成したプログラムを演奏(45分を参加団体の数で割った時間が各団体の持ち時間となります。)休憩をはさみ後半、参加団体全員で《宇宙について》を歌います。

内容と各曲の様式

第1章 天地創造の神話 インド [初期オルガナム(オルガナム、ホケトウスなど)]

第2章 東アジア(日本書紀) [12音風、無調]

第3章 メソポタミア(旧約聖書)[古典派、ロマン派]

第4章 神の探求について [初期バロック～から無調へ]

第5章 山田の「おらッシャ」(隠れキリシタンのおらッシャ)

第6章 山田の「ぐるりよおぎ」→各民族の宗教歌へ：インドネシア(ガムランのミサ)、カナダ(モホーク・インディアン)、インド北部山岳地帯(ビル族)、セネガル(セレール族)、エチオピア(コプト教会I,II)、東トルコ(シリア教会の

聖歌)、さんじゅあんさま、だんじくさま(しばた山)

第7章 華厳経

演奏計画

第1～第3章までは各章を1(乃至2)団体が受け持ちそれぞれの団の指揮者とともに演奏。第4章～第7章までは全員が参加する。ただし第5、6章の各宗教歌は選択自由。第4章～第7章までの指揮は淡野弓子が担当。

註：使用楽譜 柴田南雄『宇宙について』全音楽譜出版社 各団、各自でご用意下さい。

註：暗譜の必要はありません。

参加団体の募集

参加希望合唱団は5月11日(日)までに、演奏委員 淡野弓子 yumiko@musicapoetica.jpあて演奏希望の「章」とともにご連絡下さい。男声合唱団、女声合唱団、学生、児童を問いません。また会員各位の個人参加も歓迎です。

各団の演奏する「章」は締め切り後に、ご希望を優先しつつ、調整のうえ決定します。その「章」の練習はそれぞれの団内でお願いします。

個人参加の場合は、各参加合唱団の練習日、練習場所、または演奏希望の「章」などに合わせ、いずれかの合唱団の練習に加わって下さい。または第4章以下のみの参加も可能です。この場合は以下の練習計画に添って下さい。

参加者・各合唱団はチケット：全自由 2000円の販売にご協力をお願い致します。

衣装他、細目については参加団体決定後、皆様とご相談致します。

練習計画(合同)

日時：2014年8/25(月)、8/27(水)、

9/1(月)、9/3(水)、9/10(水)

いずれも19時～22時

場所：ドイツ語福音教会

141-0001 品川区北品川 6-5-26 (03)3441-0673

最終合同練習 9/14(日)15時～21時 各合唱団のプログラム&《宇宙について》

場所：日本キリスト教団本郷教会 167-0043 杉並区上荻4-24-5 (03)3399-2730

ゲネプロと本公演 9/15(月)11時～14時GP

開演15時/終演17時

場所：三鷹市芸術文化センター「風のホール」

終演後、芸術文化センター内レストランにて打ち上げパーティー。

以上。

皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

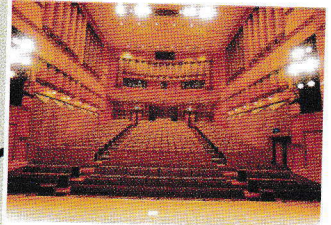
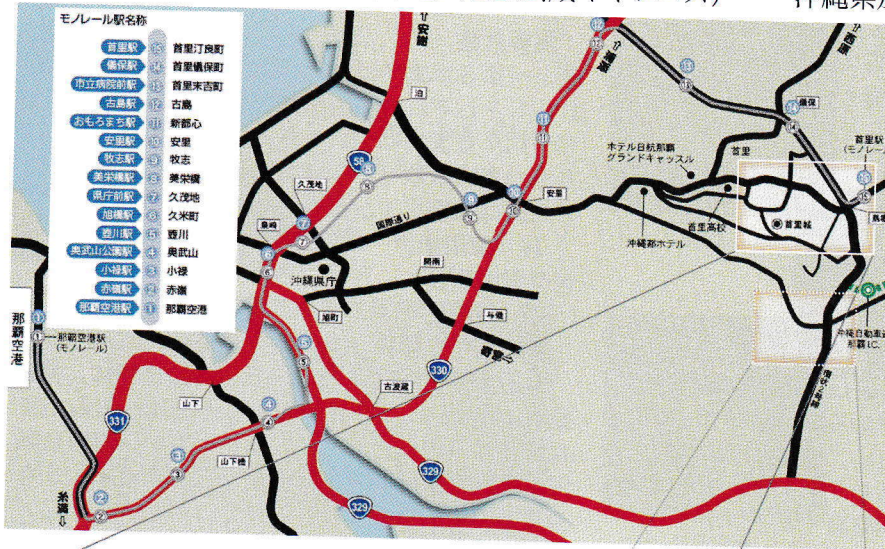
演奏委員 豊田喜代美、山本富美、淡野弓子

第100回例会ご案内

日時 11月29日(土) 14:00~19:30

会場 沖縄県立芸術大学 奏楽堂 (首里当蔵キャンパス)

沖縄県那覇市首里当蔵町1-4



奏楽堂内部



奏楽堂外観

校地と建物



地図・写真は沖縄県立芸術大学HPから

研究発表

1. 琉球古典芸能に関する研究発表 (比嘉康春、仲嶺伸吾、山内昌也)
2. 沖縄地方の発声に関する研究発表 (泉理事)
3. 西洋音楽の声楽における声種に関する研究発表(豊田理事)

懇親会会場と同じ宿をお望みの方へ。会場決定次第ホームページ、学会通信にてお知らせいたします。

・空港から会場(首里当蔵キャンパス)までの交通
【タクシー等自動車利用の場合】

那覇空港 (那覇)より9.8km、約45分。
沖縄自動車道・那覇I.C.から約10分。

【モノレール利用の場合】

那覇空港駅より首里駅まで約35分。
首里駅より徒歩約10分。

【バス利用の場合】

「当蔵」バス停車、徒歩1分。

那覇バス系統番号

[1]首里牧志線 / [17]石嶺(開南)線 /
[46]糸満西原線 / [14]牧志開南循環線

沖縄バス系統番号

[8]首里城下町線

・観光について

例会翌日に観光を希望される方へ。沖縄支部から、おすすめの観光について次号学会通信にて案内がありますので参考にして下さい。

記念コンサート《琉球伝統芸能&西洋クラシック音楽》

1. 琉球芸能
2. 宗教曲アンサンブル
3. オペラアンサンブル
4. 琉球古典芸能と声楽との交歓演奏 (仮)

*当日20時より懇親会を予定しています。

交通案内

・沖縄までの移動、宿泊について

開始時刻と空港からの移動時間等よくご確認のうえ、移動手段や宿泊等の検討をして下さい。演奏会終了後の便での日帰りも可能とのことです。

都合の良い便、宿は人気があり数に限りがありますので、早めの調査と予約をおすすめします。航空券と宿泊のセット等市販されています。成田発LCC利用の格安パックもあるそうです。

会員からの投稿

日本語歌唱とその重要性

山崎英明

“声楽”というとは一般的にはオペラや歌曲などを指し、とりわけイタリア語やドイツ語などをはじめとする外国語を歌詞とした曲を取り上げることが多い。

コンサートとは、周知の通り演奏者と聴衆者の2つの関係があって初めて成立するものである。生演奏で重要な点は“場”を共有することにあるだろう。ところが、悲しいことに演奏側が自分の演奏に悦を感じているだけの、いわば「一方通行」のコンサートに出会うことも少なくない。聴衆が演奏中に居眠りをしてしまう現場を見た事がある方もいるのではないだろうか。もしかしたら、これを読んでいる貴方も居眠りの経験があるかもしれない。ただ単に疲れや睡眠不足ならしやうがないことだが、困ったことに「コンサートが退屈」という理由も少なからずある。歌い手本人は楽曲の素晴らしさを一生懸命歌おうとして奮闘しているのかもしれないが、聴き手にそれらが届いていないのである。

聴衆はなにも専門家だけではない。むしろ一般人が多い(そうであってほしい!)。したがって、歌詞が外国語である以上、意味を理解できずに聴いている場合も多い。プログラムと共に配布される逐語訳などは聴衆の全員が読んでくれるとは限らないのである。世間一般にいう声楽家は＝オペラ歌手と捉えられ、“良い声”というだけで価値のあるものだ。しかし、演奏を一種のパフォーマンスとして捉えてしまう現状も少なからずある。

「声が大きい」、「綺麗な声」、「超人的な高音」、「名人芸的なコロラトゥーラ技巧」などなど。パフォーマンスとして聴くのも結構だが、これでは声楽の芸術的な魅力が半減するばかりか、楽曲の意図する内容もほとんど伝わらないだろう。なにより作曲家に申し訳ない。楽器の三要素、起動体・振動体・共鳴体のうち、共鳴体の形を変化させて“言葉”を形成する唯一の楽器が声であり、歌唱である。したがって、歌詞の意味を理解してこそその音楽であり、表現なのである。

そのためには言葉としての意味が理解できる、すなわち歌詞がわかる日本語による楽曲を演奏することを提案したい。日本語による声楽曲には世界にも引けを取らない名曲が数多ある事はご存知の通りであろう。しかし、圧倒的に外国語を扱う歌い手が多い。日本語の歌唱を勉強しないで卒業する音楽大学も少ない。これは大きな問題である。声楽家が母国語の演奏をしない、背を向けるといったことがあってはならない。各々の数多いレパートリーの中に、どうか日本語をたくさん取り入れて欲しいと切に願う。何も声楽に限ったことではない。しかし、言葉を持つ声楽作品から光を当てる事によって、器楽曲の魅力もおのずと普及するのかもしれないのだ。外国では演奏家が自国の曲を演奏することは数多くあり、ナショナリズムに裏付けられた演奏方法および演奏解釈はそれだけでも価値のあるものである。是非、日本人にも日本人の楽曲を演奏して欲しい。頻繁に演奏されるおなじみの曲から、知られざる“銘曲”をたくさん世に広めて欲しい。声楽演奏はなにも細かいパッセージやアジリタのような超絶技巧を演奏するだけではない。単純な旋律、簡単な楽曲、誰もが知っている楽曲をしてでも聴衆を感動させることができる技量こそ、歌い手にとって不可欠な要素ではないだろうか。これまでの声楽発声分野の研究では、洋楽的唱法を対象とするという暗黙の了解があるように思える。中には日本語を“話す”のと“歌う”ことに違和感を感じる方も多いかもかもしれない。しかし、洋楽的唱法と邦楽的唱法の両方を視野にした日本語にとって適切な歌唱法を各々が模索していかねばならない。特に、女性が洋楽的唱法で高音域を発声する際、“何を言っているのかわからない”という歌詞の不明瞭さの深刻な今日の問題を解決する必要がある。歌唱発声に関する研究は、日本語の特質を全く吟味せずに、「洋楽的唱法ありき」でスタートしたという不幸な歴史を持っている。日本語の歌唱法に関するこれからの研究発展と教育を心から望みたい。当会が広く「声楽発声研究」を担う学術組織だからこそその期待である。

(2014年4月投稿)

会員からの投稿

ベルカントを巡る

No2 「声楽学校がローマに創られる」

河合孝夫

芸術をArt (よき技術) と定義して声楽芸術の発展を見るなら、ある時までは単なる歌だったものが、それぞれの時代の人々の抱いたよき歌のイメージを技術にしなが、長い年月の紆余曲折を経て、ベルカント (美しい歌唱法) として現代に受け継がれて来ている。そこで、我々が西欧で育った声楽とベルカントを理解し歌おうとする時、ただ現代の声楽技術を見るだけでなく、その原点と経緯を知る事も大切である。そのような観点から、私の話を読んでいただければありがたく思う。

今回は、現代の音楽大学の原型が、紀元4世紀にローマに創られたキリスト教の声楽学校にあることを申し上げた。今回は、なぜローマに声楽学校が創られたのか、その背景について考えてみたい。

さて、声楽学校が創られる直前のローマ帝国は、軍人皇帝の乱立とゴート人の侵入により、まさに内憂外患の不安な世相に包まれていた。そんな世相を背景にキリスト教は人々の心に着実に浸透し、多くの人々がキリスト教を信じるようになっていた。しかし、キリスト教徒への迫害は過酷を極め、当時の教会史家エウゼビウスによれば、拷問や財産の没収、火刑や猛獣に襲わせるなどおよそ現代では考えられない悲惨な状況であった。このような状況の中、キリスト教徒にとってその後の運命を変える一大事件が起きた。紀元313年、コンスタンティヌス帝のミラノ勅令でキリスト教が公認されたのである。

これはキリスト教徒達にとって180度の転換であり、神による奇跡と思われた。それまで地下に隠れ、ひっそりとカタコンベで行われていた神への祈りを堂々と人前でできるだけでなく、没収された財産は返され、立派な教会まで建てられたのである。また、キリスト教の公認は、教会にそれまでと違った使

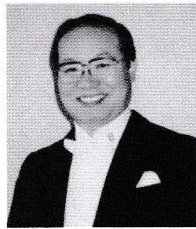
命を背負せる事にもなった。すなわちローマを中心にキリスト教を教会組織として統一し、そして新たに未知への世界へと広めていく使命である。

この時のキリスト教徒達の喜びはいかばかりだったろう。キリスト教が生まれてから300年余りの歴史の中、キリスト教徒はともに歌い、喜びを分かち合って迫害を耐え結束を保ってきた。救いの日を待ち望んだ人々には、聖書の予言が実現したと思われたかも知れないし、教会で、過酷な迫害から解放された神への感謝を歌う時には、司祭の声が天の声のように聞こえ、人々はその声に合わせて救われた喜びを歌ったに違いない。

そして今、喜びと希望に溢れ教会が一つとなって前進しようとする時、最も有効な布教の手段として歌があった。教会には長い歌の経験がありその心理的効果をよく知っていた。典礼で歌を歌うことは司祭が担っていたが、この教会発展の時、布教の最前線を担う司祭の音楽教育は急務であり、そのための声楽学校をローマに創る必要があったのである。

この、教会が歌を声楽学校で教育をするという行為が、歌を単なる歌から芸術としての歌にしていく事につながっていく。それまでは個人の能力に頼り伝統に従い祈りの延長上で歌っていたものが、それからは教会の考える目的に合ったよき歌の技術を教育するようになり、その後の紆余曲折はあるものの、歌がArt(技術)=芸術になり、ヨーロッパの歌い方の基礎となるベルカント唱法の第一歩を踏み出す事になったのである。

では、当時の声楽学校とはどんなもので、またどのような考えで発声や旋律の歌い方を教育したのであろうか。この私たちの最も興味あるテーマについては、次回お話しすることにして。 (2014年3月投稿)



今後の予定

第99回例会(5月例会),第50回総会

5月25日(日) 9:55~16:30

会場 東京藝術大学

特別講演

楠 威志氏

「鼻呼吸と腹式呼吸の重要性」

野村四郎氏

「日本芸能(能楽)における伝統的技法について」

現役演奏家の演奏とお話

河野克典氏(バリトン)

荒城の月、Adelaide 他

*昼食時に、美術学部大浦食堂にて創立50周年記念パーティーを開催いたします。

事前申込が必要です。会費2000円は当日お支払い下さい。会の性質上、準正装での参加にご協力をお願いします。

祝辞 米山文明顧問 乾杯 宮原相談役 他

*詳細は例会案内をご覧ください。

「臨床音声研究会東京」開催について

例会前日、5月24日(土)17:00~19:00呼吸と発声研究所(東京渋谷)に於いて開催。この「日本耳鼻咽喉科学会」認定の研究会は、本学会会員の主として耳鼻咽喉科医師の研究会ですが、会員・関係者で聴講希望の方は、仙川耳鼻咽喉科(竹田数章会員)03-5313-3281へFAXで5月19日(月)までにお申し込み下さい。参加費は1000円です。

*呼吸と発声研究所は渋谷東急百貨店裏へ移転しました。

平成26年 夏季研修会

開催の有無も含め、理事会にて検討中です。決定次第、ホームページ、学会通信にてご報告いたします。

創立50周年記念演奏会

9月15日(月) 9:55~16:30

会場 三鷹市芸術文化センター 風のホール

*詳細はP3の記事をご覧ください。

第100回記念例会(11月例会)

11月29日(土) 14:00~19:30

会場 沖縄県立芸術大学 奏楽堂

*詳細はP4の記事をご覧ください。

会員の動向

~~ 出版案内 ~~

・米山文明顧問

書籍「美しい響きの飛翔」

-フルートと声のためのメソッド実践本 -
レグーラ・シュヴァルツェンバッハ/レティー
ツィア・フィオレンツァ 共著

川島千穂 訳 / 米山文明 監修

出版:音楽之友社 販売:音楽之友社、米山文明
「呼吸と発声研究会」(1,800円+税)

DVD「元気になる声と呼吸」(初級編)

制作・販売:米山文明「呼吸と発声研究会」

(4,000円税込み)

・嶺貞子顧問

CD「舞踏への誘い」嶺貞子(S) ピュイグ=ロジ
ェ(P) FOCD-9595 2,400円+税

2013/06/20 発売 フォンテック

CD「幻の城」嶺貞子(S) カンポガッリアー
ニ(P) FOCD-9607 2,400円+税

2013/10/16 発売 フォンテック

~~ 公開レッスン案内 ~~

U.ハイルマン公開講座のお知らせ

日時:6月29日(日)10時~17時

会場:アスピアホール

(京王線 幡ヶ谷駅下車3分)

聴講料:4,000円

問合せ・申込先:米山文明呼吸と発声研究会

TEL/FAX. 03-5453-5222

・聴講希望の方は、上記へFAX.でお申込み
ください。

~~ コンサート案内 ~~

大中恩先生卒寿を祝うコンサート

日時:7月19日(土)13:30開場 14:00開演

作曲・指揮:大中恩 会場:紀尾井ホール

曲目:女屋靖子詩 女声合唱組曲「やさしさは

風に乗って」、中田浩一郎詩 混声合唱組曲

「花のある風景」、青木一恵詩 無伴奏混声合

唱組曲「こころ舞うとき」(初演)、他

ピアノ:女屋靖子、山田よしひろ

演奏:コールグレース、メグめぐコール

*相川修一幹事 兒玉時子・西村暁子会員出演

全席自由 3,000円

お問合せ:080-3422-0981(道岡)

03-3303-0472(宇野) 03-3408-6422(大中)

事務局から

会費納入のお願い

新年度となりましたので、年会費の納入を
お願いいたします。平成26年度年会費用振替用
紙を同封しましたので、ご利用下さい。

また、過年度の年会費未納の方は早急にお
振込下さいますよう、お願いいたします。通
信欄には、該当年度をご記入下さい。

お振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00170-0-119920

加入者名 日本声楽発声学会

「声楽発声研究」について

NO.6は3月発行と案内していましたが、諸
般の都合により延期となりました。7月初旬
頃郵送の予定です。

連絡先について

転居等で連絡先に変更がありましたら、お
早めに連絡ください。

事務局だより

副会長(事務局長兼任) 小川 昌文

学会通信 第27号をお届け
します。本年度は当学会設立5
0周年を迎え、5月例会では
2つの特別講演(楠先生、野
村四郎先生)、9月15日には
「歌の集い」として合唱コン
サート《宇宙について》の公演、そして
11月例会では会場を沖縄に移して琉球古典
音楽を交えたクロスオーバーなプログラムを
企画いたしました。いずれも理事のそれぞ
れの担当の先生方のご努力により、50周年
にふさわしい内容となったと思います。今年
度の諸行事が、当学会の更なる発展につな
がるべく理事会が一丸となってがんばってまい



りたいと思います。会員の皆様のご協力、ご
指導ををよろしくお願いいたします。

なお、山崎英明会員、河合孝夫理事からの投
稿をいただきました。皆様の会員だよりをお
待ちしておりますので、ふるってご投稿くだ
さい。

編集後記

幹事 相川 修一

夏と秋に発行していた学会通信ですが、今
回は早めにお知らせすべきことがあったこと
と、学会通信の充実、活性化のため、8ペー
ジ構成で、例会案内とあわせてお送りしま
す。春、夏、秋のイベントの報告を掲載する
にも、年3回発行はちょうどいいのかもしれ
ません。

今回、ホームページからの呼びかけに呼応
して下さり、1ページにもわたる提言を寄稿
していただきました。河合理事の連載投稿も
順調のようです。学会通信記事への意見、感
想、例会や研修会等のレポートや感想等もゼ
ひお寄せ下さい。また、コンサート等の案
内、実施の報告、出版、メディアでの活動
等、情報の共有もできればと思います。ホー
ムページと連動させながら展開していきます。
*ホームページには最新情報を随時掲載して
います。ぜひご覧下さい。

<http://www.jars-voice.com>

2014年4月28日

日本声楽発声学会 学会通信 第27号

発行人 末 芳枝

編集人 相川 修一

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail : jars@jars-voice.com

HP: <http://www.jars-voice.com>